

○101204 読売「プーチン主導「国策」誘致」「小国 加速する存在感」

「(*プーチン) 政権は、愛国心が高まり、経済効果も望める国際行事を通じて大国ロシアの国威発揚を図る戦略を明確にしている」「ロシアの国際イベント招致成功は、12年にウラジオストクで開催するアジア太平洋経済協力会議 (APEC) 首脳会議や、14年のソチ冬季五輪、同年以降のF1 (フォーミュラ・ワン) に続くものだ」

「広大な国土を抱えるロシアでは、特に地方でインフラ (社会資本整備) が遅れており、政権批判が高まりやすい。…W杯関連事業に予算を重点配分し、地域振興と政権への支持固めまで実現しようという狙いが透けて見える。▽ただ、W杯事業が…「ロシア史上最高額の事業」 (露コメルサント紙) となる可能性も指摘されている。… (*会場が分散しているために) 露ベドモスチ紙によると、道路総延長 7711 km、鉄道同 2024 kmの新規建設が必要になる」

「ロシアは輸出の3分の2を石油や天然ガスが占め、資源市場の動向は国家経済に直接波及する。今後、資源価格が暴落することがあれば、財源確保に支障が出る恐れもある」

「(*カタールについて) 巨大産油国サウジアラビアや急成長を遂げたドバイを抱えるアラブ首長国連邦 (UAE) といった周辺国の陰に隠れがちだった小国は、世界最大規模のイベント招致成功で、存在感を一気に高めることになりそうだ」

「埋蔵量世界3位を誇る天然ガスの輸出に裏打ちされた豊富な資金力」「世界同時不況で周辺国の景気が減速した09年も経済成長率9%を維持。今年は成長率が15%に上る見通しで、11年は21%に達すると予測される」「人口約170万人。秋田県よりやや小さい面積の小国は現在、空前の開発ラッシュで…」「順調な経済成長を背景に、カタールは外交面でも、テロや紛争が絶えない中東にあって、近年はイエメンやレバノン、スーダンなどで起きた武力衝突の調停に乗り出すなど、仲介役として浮上しつつある」

「カタールでのW杯は湾岸地域の勢力関係を変えるきっかけとなる可能性もある」

○101209 朝日「敗れるべくして敗れた招致」

「(*FIFAは) 6カ月前に、運営能力や治安の悪さというリスクを南アフリカで乗り越えた自信も影響したのかもしれない。…▽そもそも国内に向けて夢や情熱を語る言葉を持ってなかった。それなくして国を挙げての招致活動など起こりえない」

「もうひとつの厳しい現実は、02年大会で使った競技場が開催基準から既に時代遅れになっている点。欧州では商業施設や文化拠点の役割を併せ持つ複合型の競技場がトレンド。スポーツ施設にとどまらない、長く幅広く使える競技場づくりを訴えることもサッカー界には求められる」

○101210 日経「W杯 文化深める大会も」

「競技施設を含めこれからインフラ整備に大枚をはたく国を選んだ。…「広げる」だけでなく「深める」ようなW杯も何回かに1回はやってほしいと思う。…心の底からサッカーを愛する人に囲まれて心置きなく試合を見る喜び。応援と観賞の絶妙なバランス。試合後は街頭に余熱が持ち出され、世界中から集まった人々が浮かれ騒ぐ。サッカーが人生と

生活に根を下ろした「フットボールネーション」だけが作り出せる空間。これだけは、いくらカネを積んでも買えない

「(*カタールでは) 競技場はすべて地下鉄などを使って1時間ほどで移動できる距離でつながるそうだ。…▽…W杯期間中はカタールそのものが一つのアミューズメントパークになるような絵である。狭い国土に世界中のサポーターがひしめき合い、次から次にアトラクションをはしごするように試合を追いかける。施設は何もかも最新で快適、人工的に完備された、金ぴかのディズニーランドのようなW杯」

○101203 毎日「サプライズ 演出も」

F I F A調査報告書：「チリ連盟会長を団長に5人で構成する視察団が、今年7月の日本視察を皮切りに、9月までに18年と22年大会の全9候補地を訪問して作成した」

F I F Aの調査報告書のリスク項目 (F I F Aは12開催都市、6万室のホテルを要求)
<運営上のリスク>

競技→競技場建設、競技場運営、練習施設、競技関連イベント

交通→空港と国際利便性、地上交通、開催都市間交通

宿泊→宿泊施設

テレビ→国際放送センター

<法的リスク>

政府文書→政府保証

契約文書→開催契約、開催都市契約、競技場契約、練習施設契約、確認契約

○101206 産経「国の支援 不可欠」

「日本は大阪が立候補した08年夏季五輪、東京が名乗りを上げた16年夏季五輪に続き、五輪とサッカーW杯で3連敗。中でも22年W杯招致で同じく開催間隔が短かったにもかかわらず、最終決戦の前まで残った韓国に“完敗”した事実は国際スポーツ界での「政治力」のなさを物語っている」「結果的にハートもハードも足らず、招致に敗れた日本」

「運営が不安視されながら成功を収めた南アフリカ大会の自信によって、F I F Aは未経験国での続けてのW杯にも二の足を踏まなくなった。開催能力よりメッセージ性、「安全策」より「挑戦」に傾く姿勢は、16年夏季五輪開催地に東京やシカゴ(米国)ではなく、リオデジャネイロ(ブラジル)を選んだ国際オリンピック委員会(I O C)にも重なる」

○101127 毎日「熱狂の祭典 どこへ」

<米国、オーストラリア、韓国の主なアピールポイント？>

米国：「大規模スタジアムと、94年米国大会の観客動員実績(W杯記録)。入場者増でF I F Aの収入増。放送権料の伸びも期待。

オーストラリア：オセアニア地域初のW杯。実現すれば、五輪より先に全大陸を制覇。高い安全性と医療水準。

韓国：北朝鮮で何試合か行う部分共催を考慮。サッカーを通じて朝鮮半島の関係改善、南北統一に向けた象徴となる大会を目指す。